

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

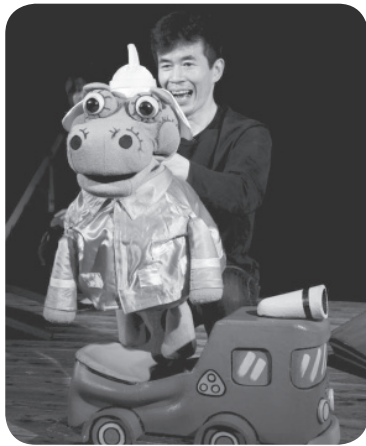


田無アトリエ外観

西武新宿線田無駅と花小金井駅の間に、その劇団のアトリエがあります。劇団の名は「人形劇団ブーク」。1929年に創設され、今年創立83年目を迎える、日本を代表する人形劇団です。映像部門は、NHK教育の「おかあさんといっしょ」や最近では「新・三銃士」などで高い評価を得ています。舞台活動では8月に、大人のための人形劇「怪談牡丹燈籠」の公演も予定されています。

人形劇で広がる市民の輪

「人形劇団ブーク」との交流の中で



けいこ風景

「人形劇は、子どもが入りやすい世界です。日常とは違う、ハレの日のものとして楽しんでほしい。昨年の震災の後、9月に東北を公演して回りましたが、被災地の子どもたちは、とても反応がよく、人形が出てきただけで大喜びしてくれました。震災以来、心から楽しんだことがなかったのかもしれない。公演後、ある被災者に、「寝ることも食べることが、どうにもなるんだ。楽しいことや美しいことがなくなってしまっている」と言われ、人形劇は、社会に対してどんな役割を果たせるのだろうかと思っただけでもありましたが、人形劇を通して子どもを笑顔にし、また大人を元気にすることができたことで、自分の仕事を見つめなおしました。

西東京市民との関わり

ブークは西東京市の保育園児を対象に毎年公演をするほか、14年前にもれびホールで実施した人形劇ワークショップの指導をして、人形劇サークルの立ち上げにも協力してきました。しかし、ブークと西東京市民とのかわりは、それより以前の20年以上前にさかのぼります。アトリエに近所の人を招待



そんな指導に、サー



2011年フェスタスタッフの皆さん

「人形劇フェスタ in 西東京」さて、来る7月8日(日)市民会館で「第7回人形劇フェスタ in 西東京」が開催されます。ブークの公演のほかに、人形劇サークル10団体による公演もあります。実は、このフェスタの前日、人形劇サークルは井上さんの演技指導を受けています。アマチュアとはいえ、人形劇を人に見せる以上、今自分たちのできる一杯の演技を披露してもらいたいと、井上さんの指導にも熱が入ります。

して、何度か大人のための人形劇を披露したのだそうです。演出家の井上幸子さんは、当時のことを回想し、「近所の人々が、お手製の料理を持って観に来てくれたのは、楽しい思い出です。また以前のように、アトリエで地域の人が楽しめる人形劇を披露してみたいですね」と語ります。

クルのメンバーからは、「求められるものの質が高く、時には応えるのが難しいこともあります。私たちがやる気にならなくてはならない」と、感謝の言葉。ブークが人形劇フェスタを通して、自分たちの力量を高め、互いに協力し合っている姿を見るにつけ、私たちブークも少しでも協力していきたいと思ふようになりました」と話す井上さんは、「フェスタは市民活動の輪として少しずつ広がってきました。アマチュアの人たちを中心に、一生懸命動いているエネルギーを感じます。新しい方たちにも是非人形劇の世界に飛び込んでほしい。大変なほど、喜びも大きいですから」とも語ってくれました。

講座受講生が作曲コンテストで最優秀作品賞を受賞!

今年2月に柳沢公民館で行われた「ブラックミュージック解体講座」を受講した市内在住の友野旭洋さん(25)が、3月31日に開催された作曲コンテスト「いしかわかなざわイメーションング」で、117曲の応募の中、みごと最優秀作品賞を受賞しました。

講座最終回の翌日に一次審査通過の連絡があったということ。「講座との縁を感じずにはいられない」と、嬉しい報告をいただきました。

「はじめまして。私はオソルルベカラズという個人名義で音楽活動している友野旭洋と申します。」

この度、奇跡的に石川県の作曲コンテストで最優秀作品賞を受賞することができました。私が受講したこの講座はブラックミュージックの魅力も様々な角度から捉え、歴史はもちろん実際に音楽を聴き、ワークショップ形式で楽器の演奏体験もできる、まさに「ターヘル・アナトミア」(※)的な内容でした。

ここで私は運命的な出会いを果たします。講座の講師である佐藤さんとの出会いです。コンテストの最終審査は石川県立音楽堂で公開審査という形で行われたのですが、そのとき佐藤講師の言葉が大きな心の支えになりました。

大会当日、他の参加者との音楽性が極端に異なっていたため私は内心自分の作品に大きなズレを感じていました。ハッキリ

「いいかい、スレガリズムにグループを生み出すんだよ」
 では、心地良いノリや曲の高揚感を表す言葉です。しかし講座ではその定義を上げ、人と人との間に生まれる「空気」のこともそう呼んでいました。講師は続けます。
 「音楽と同じで、人間関係も一人一人のスレがその集団に面白さやまとまりを生むんだ。だから違っていていいんだよ」
 そこからは勝負のことは忘れ、とにかく大会に楽しいグループを生み出すことを目指しました。結果的に賞を受賞することができたのは、そのことが大きく関わっているかもしれません。この講座は私にとって音楽的なスキルアップだけでなく、前向きに人と関わっていくことの大切さを学ぶ自己啓発的な役割も果たしてくれました。

ひよっとすると、柳沢公民館はパワースポットなのかもしれない(笑)。これからはなるべく公民館に足を運び、運気を上げ、よりよいグループを町に発信していこうと思えます」



現在、この大会の一部始終を、下記ホームページで公開しております。ぜひ一度遊びに来てください!
<http://osollvecalaz.web.fc2.com>

※ドイツ人クルムスが初心者向けに著した「解体図譜」。前野良沢・杉田玄白らによる「解体新書」の原著。